

# 東三河振興ビジョン【主要プロジェクト推進プラン】新東名インパクトを活かした地域振興～広域観光の新展開～ の概要

## I【策定方針】

＜位置付け＞ 県、市町村、東三河広域連合、経済関係団体、観光関係団体、大学、民間事業者、NPO等が連携・協働して展開する実施計画。平成24年度に策定した主要プロジェクト推進プラン「広域観光の推進」（以下「24プラン」という。）の検証を踏まえ、取組の更なる重点化の観点からテーマを設定。

＜策定主体＞ 東三河ビジョン協議会（県、東三河の8市町村、東三河広域連合、経済関係団体、大学等で構成）

＜計画期間＞ 平成29年度から平成31年度までの3年間

## II【現状と課題】

○ 24プランでは、観光資源の活用を図りながら、イベントやスポーツ大会の開催、施設整備等、様々な取組を行い、着実に成果を積み重ねてきた。その結果、東三河を訪れる観光客は2,316万人、宿泊者数は199万人を超え、設定した目標を概ね達成することができた。


○ 平成28年2月には新東名高速道路愛知県区間が開通し、さらなる観光客の増加が期待される。

○ 東三河の観光の現状を踏まえると、観光客の動きの変化への対応、観光客数の増加を収益に結び付ける取組の充実、観光客の受入体制の整備、海外からの誘客強化に向けた取組を、重点的に進める必要がある。


## III【目標】

観光交流人口の拡大と観光客の増加を収益に結び付ける取組を進めるため、次の3つの数値目標を設定

### 目標1 観光客入込数の増加

＜現状＞(H27) 約480万人（約21%）増加  
23,158千人  <目標>(H31) 28,000千人

### 目標2 宿泊者数の増加

＜現状＞(H27) 約70万人（約35%）増加  
1,999千人  <目標>(H31) 2,700千人

### 目標3 道の駅の売上額の増加

＜現状＞(H27) 約2.6億円（約15%）増加  
1,737百万円  <目標>(H31) 2,000百万円

## IV【2つの方針と6の主な取組】

### 1 新東名インパクトの検証と活用

#### (1) 新東名インパクトの検証

①新東名開通インパクトの検証 ②観光に関するデータの収集

#### (2) 新東名開通により変化する観光客の動きへの対応

①変化する観光客の動きに対応した観光コンテンツの充実 ②広域的な周遊性の強化

#### (3) 新東名開通効果のPR

①地域外に向けたPRの実施 ②東三河が一体となったPRの実施  
③リピーターの獲得に向けた取組

### 2 観光に関わる基盤の整備と活用

#### (1) サービスの質を向上し「稼ぐ力」を創出

①新たな観光スタイルの創出に向けた取組の推進 ②体験型観光の推進  
③イベント・コンベンション等を活用した観光の推進  
④多様な活動を通じた魅力発信

#### (2) 観光案内の質の向上・人材の育成

①観光地域づくりの中心となる組織基盤の充実 ②案内業務等の強化に向けた検討  
③観光ボランティアの担い手拡大や観光ガイドへの支援

#### (3) 基盤・施設の整備促進

①東三河南北軸等交通ネットワークの強化  
②公共交通の運行形態の見直しや二次交通の充実に向けた検討  
③観光施設や観光案内施設の整備 ④公共交通網等を活用した周遊観光の促進

## V【推進体制等】

### ＜推進体制＞

○各主体がそれぞれの取り組みを着実に推進

○「愛知県東三河広域観光協議会」が核となり、県や市町村、東三河広域連合、各種取組主体と連携・協力しながら、各取り組み間相互の調整を図り、取り組み効果を高め、実効性を確保

### ＜推進プランの進捗状況の把握及び見直し＞

○「愛知県東三河広域観光協議会」、県、市町村、東三河広域連合が連携・協力しながら、毎年度、進捗状況の把握及び評価を実施し、東三河ビジョン協議会へ報告

○東三河ビジョン協議会において、社会経済環境の変化を踏まえて、随時ローリングを行い柔軟に見直し

## VI【平成28年度先導事業】

### 1 新東名開通効果検証事業（愛知県事業）

ビッグデータを活用し、新東名開通前後における観光客の動きやニーズの変化を検証

### 2 東三河ブランドショップ実証実験（東三河広域連合事業）

「ブランドショップ」の有効性を図るため、浅草（まるごとにつぼん）及び東京丸の内（東京シティアイ）にて実証実験を実施

### 3 東三河魅力発信事業（東三河広域連合事業）

東三河の魅力を伝え、来訪意欲の向上に繋げるため、鉄道駅や道の駅等に東三河観光PRポスターを掲出